

平成 23 年度（第 19 回）専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会
委員長 東 敏昭

平成 23 年 8 月 27 日・28 日に、平成 23 年度（第 19 回）専門医資格認定試験が実施されました。今年度も昨年度に引き続き、産業医の実務を遂行するために必要な知識や経験に裏付けられた見識が試験されています。産業医の実務を完遂するためには、基本的な知識をしっかりと習得し、応用することが求められます。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表致します。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載致します。

【筆記試験問題】

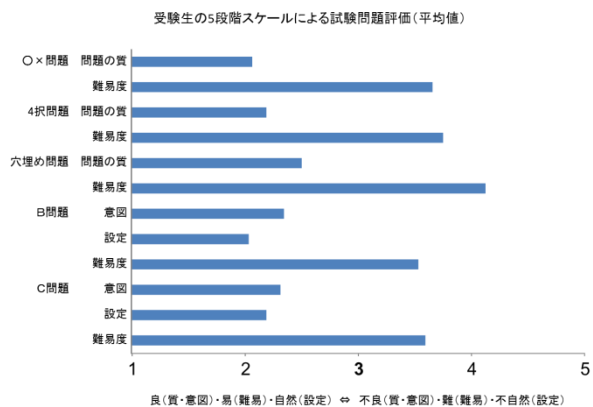
問題は、例年どおり、A 問題、B 問題、C 問題から構成しましたが、問題形式を少し変更しています。それも含めて以下に解説します。

平均点は 68.8 点、最高が 80 点、最低が 54 点で、試験問題としては適切な難易度であったと考えています。ただ、今回初めて実施した受験生のアンケート調査では、やや難しいとする意見が多かったようです。

A 問題は専門医として必要な産業保健全般にかかわる基本的知識を評価することを目的としたもので、産業医学にかかる標準的なテキスト(今年は「産業医の職務 Q&A」産業医学振興財団)の全領域を網羅したものです。○×式を 20 問、4 択を 10 問、穴埋めを 10 問、合計 40 問を出題しました。各 1 点で最低点が 21 点、最高点が 34 点、平均 27.1 点(67.8%)でした。A1-8、A1-10、A1-12、A1-15、A1-18 は全員が正解でしたが、A1-4、A3-32、A3-34、A3-38、A3-40 は正解割合が 25%を下回っていました。全体的に穴埋め問題(A3)の正解率が悪かったといえます。

B 問題は産業医活動を展開していく上で必要な高度な知識を評価することを目的に、3 つのカテゴリーの 2 問中 1 問ずつ、計 3 問(各問 10 点)を選択し、200 字程度で説明を求める記述問題としました。32 人中、B1(職場巡視・衛生法規)では 26 人が 1 を、B2(有害物質関係)では 28 人が 2 を、B3(健康管理)では 1 を 21 人、2 を 11 人選択していました。各 10 点満点中 7 点前後の平均値でしたが、B3-2 は 5.7 点とやや低い平均値でした。B 問全体の平均点は 20.8 点(69.3%)でした。

C 問題は産業医活動を展開していく上で具備すべき実地的な解決能力を評価することを目的に、B 問題同様 3 つのカテゴリーの 2 問中 1 問、計 3 問(各問 10 点)を選択し、300 字以内で記述する問題としました。32 人中、C1(リスクアセスメント・疫学)では



18人が1、14人が2を、C2(物理的要因)では21人が1、11人が2を、C3(健康管理)では15人が1、17人が2を選択していました。平均点はいずれの問題も7点前後で、合計では20.9点(69.7%)でした。

なお、B問題とC問題の記述式問題については、問題作成段階で設定したキーワードが含まれているか否かを慎重に判断しながら、客観性の高い採点を心がけています。受験生からは自然な問題設定などと好意的な評価でしたが、専門医試験にふさわしい良問の作成に一層心がけたいと思っています。

A1. 以下の文章が正しければ○を、誤りであれば×を解答欄に記入しなさい。

- 【1】雇入れ後すぐに、労働安全衛生法に従う定期健康診断が予定されている場合、雇入れ時健康診断を省略してもよい。
- 【2】定期健康診断時にB型およびC型肝炎ウイルス検査を実施した場合、産業医の判定に従い、事業者は労働安全衛生法に規定した就業上の措置を実施しなければならない。
- 【3】鉛取扱い従事者の特殊健康診断の貧血検査で「異常」と判定された者の精密検査費用は、事業者負担となる。
- 【4】縦5m×横5mの単位作業場所の中央の1点のみを測定点として、5回(1測定を10分以上、全体で1時間以上)測定した結果をA測定の評価に用いた。
- 【5】安全配慮義務は労働基準法に明記されている。
- 【6】砒素の職業性ばく露指標として、尿中のアルセノベタインとジメチルアルシン酸の測定が有用である。
- 【7】職員の健康を受動喫煙の危険性から保護することは安全配慮義務に含まれると認めた判例がある。
- 【8】インジウム・スズ酸化物(ITO)取扱いでは、ばく露指標としては血清中インジウム濃度、健康影響指標としては血清中KL-6濃度が有用である。
- 【9】障害者雇用促進法で企業等に雇用義務がある障害者とは、精神障害・知的障害・身体障害を持つ者を指す。
- 【10】事務所衛生基準規則に定められた労働者一人当たりの気積は、10立方メートル以上である。
- 【11】生物学的モニタリングの目的は、作業者の個人ばく露レベルを推定することにある。
- 【12】自殺または自殺未遂は、業務による心理的負荷により発症したうつ病であったとしても、故意による行動のため労災保険の給付対象にはならない。
- 【13】行政指導により特殊健康診断を行うこととされている業務に、紫外線にさらされる業務、二硫化炭素を取り扱う業務、VDT作業などがある。
- 【14】石綿による疾病に係る労災保険給付件数は平成17年度から大幅に増加し、平成18年度以降は毎年2000件を超えている。
- 【15】作業関連疾患には、作業(職業)が原因ではないが増悪因子となる疾患も含まれる。

- 【16】ろ過式呼吸用保護具を酸素欠乏環境で使用することは危険である。
- 【17】有害化学物質のばく露濃度が最大になると予想される時間を含む 15 分間のばく露濃度は、許容濃度の数値の 3 倍を超えないことが望ましい。
- 【18】製造現場や建設現場では運動器障害予防のため職場体操を行うが、事務系の職場では不要である。
- 【19】平成 22 年の業務上疾病統計によれば、災害性腰痛の認定件数は第 2 位を占めている。
- 【20】許容濃度(あるいは TLV)相当の気中濃度にばく露している作業者の生物学的モニタリングを行うと、ACGIH の勧告する BEI 程度の数値が得られる。

A2. 選択肢の中から正解を1つ選び解答欄に記入しなさい。

- 【21】労働災害の説明について誤りはどれか。
1. 事業者は、労働災害で労働者が死亡または休業したときは、労働者死傷病報告書を提出しなければならない。
 2. 事業者は、労働災害で労働者が死亡または休業したときは、労災保険による給付の請求をしなければならない。
 3. 「労災かくし」とは、労働者死傷病報告書を提出しないことや虚偽の労働者死傷病報告書を提出することである。
 4. 労働者が業務上災害で休業した場合、休業 3 日目までは、事業主が休業補償をしなければならない。
- 【22】作業環境測定結果を 30 年間保管しなければならない物質はどれか。
1. ポリ塩化ビフェニル (PCB)
 2. アルキル水銀化合物
 3. パラーニトロクロロベンゼン
 4. ホルムアルデヒド
- 【23】空気調和設備のある事務室内で、在室人員が 100 人、外気の二酸化炭素濃度 (CO₂) が 0.03% であるとき、この事務所の必要換気量はおよそいくらか。ただし、呼気中 CO₂ 濃度を 4%、1 人あたりの呼気量を毎分 10 リットルとし、必要換気量の計算には下式を用いることにする。
- $$\text{必要換気量 (m}^3/\text{h)} = \text{在室者の 1 時間当たり呼出 CO}_2\text{ 量 (m}^3/\text{h)} \div \{(\text{供給空気 CO}_2\text{ 基準濃度)} - (\text{外気の CO}_2\text{ 濃度)}\}$$
1. 429 m³/h
 2. 857 m³/h
 3. 1714 m³/h
 4. 3429 m³/h
- 【24】健康管理手帳が交付される業務でないものはどれか。
1. 粉じん作業に係る業務

2. ビスククロメチルエーテルを取り扱う業務
3. ニッケルまたはニッケル化合物を取り扱う業務
4. ベリリウムおよびその化合物を製造する業務

【25】局所排気装置の構造と管理について正しい説明はどれか。

1. ダクトの断面積が大きいほど圧力損失は小さくてすむので、ベント部分に粉じんが堆積しにくい。
2. 鉛取扱い作業場では、鉛作業主任者が毎週1回以上点検をする。
3. キャノピー型局所排気装置は、有機溶剤の排気に効果が大きい。
4. 作業者が日々の作業量に合わせて、作業開始前に調整ダンパーを動かして調整する。

【26】労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針（平成11年労働省告示第53号）が示す労働安全衛生マネジメントシステムの特徴について、誤りはどれか。

1. 産業医のリーダーシップのもとに、システムの運用体制などを整備する。
2. PDCA サイクルを組み込んだ内部チェック機能が働く自律的なシステムとなる。
3. システムにおける活動は、あらかじめ設定、文書化した手順に従って実施し、結果を記録・保存する。
4. 危険性・有害性の特定等によって事業場のリスクを最小化する。

【27】労働安全衛生法第66条の8に規定された医師の面接指導について正しい説明はどれか。

1. 常時使用する労働者数が50人未満の事業場は適用除外されている。
2. 1月当たりの時間外・休日労働時間は、[1か月の総労働時間数] - [同じ1か月の平日出勤日数×8時間] で求める。
3. 派遣労働者については、派遣元事業主に実施義務が課せられている。
4. 面接指導結果の記録は3年間保存しなければならない。

【28】海外派遣労働者の健康診断について正しい説明はどれか。

1. 必要な者に血液型検査を行う。
2. 全員にB型肝炎ウイルス抗体検査を行う。
3. 帰国後、全員に糞便塗抹検査を行う。
4. 海外に3月以上派遣される者を対象に行う。

【29】労働基準法施行規則別表第1の2に定められている業務上疾病でないのはどれか。

1. 電離放射線にさらされる業務による放射線肺炎
2. 重激な業務による筋肉、腱、骨もしくは関節の疾患または内臓脱
3. 屋外における業務による恙虫病
4. クロム酸または重クロム酸を製造する工程における業務による尿路系腫瘍

【30】作業条件の管理について法令で定められている作業はどれか。

1. 高気圧作業
2. チェンソー取り扱い業務
3. VDT 作業
4. 介護作業

A3. 【31】から【40】に適切な語句を記入しなさい。

スクリーニング検査の優劣を判断するための指標として (A) と (B) がある。(A) は有病者の中で、スクリーニング検査が陽性になる確率を指す。連続量で表示される検査では、検査異常と検査正常を区別する (C) 値を設定して判断する。(C) 値を上下に移動することにより、(A) と (B) が相反する方向に変化することを【31】現象という。

【32】とは、作業中のどの時刻をとってもばく露濃度がこの数値以下であれば、ほとんどすべての労働者に健康上の悪影響が見られないと判断される濃度である。

業務による過重負荷により発症した脳・心疾患の認定要件は大きく、【33】、短期間の過重業務、長期間の過重業務の3つに分類されている。

下図の危険有害性を表す絵表示は、【34】の区分1－3に該当するラベル情報である。



トリレンジイソシアネートを吸入ばく露すると、【35】を引き起こすことが知られている。

「職場における喫煙対策のためのガイドライン」では、喫煙室等と非喫煙場所との境界での喫煙室等へ向かう気流の風速を毎秒【36】m以上とすると定めている。

4組3交替で交替勤務を行っている有機溶剤取扱い作業場では、【37】人の有機溶剤作業主任者を選任しなければならない。

業務上災害に関する事業主の補償義務は、【38】法に定められている。

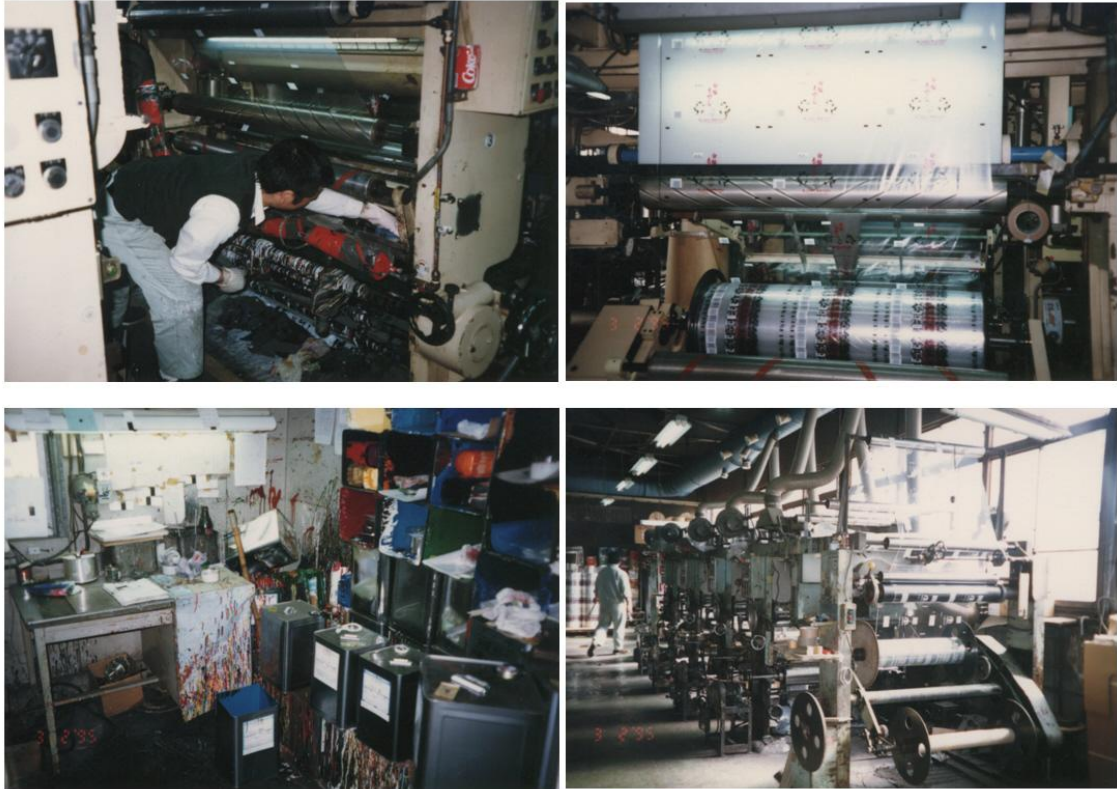
職場のセクシュアルハラスメントに関して、【39】法で事業主に「雇用管理上必要な措置を講じなければならない」と定めている。

因果関係の判定基準として、関連の (A) は原因と思われるものと結果との関連性が、異なる対象、時期において普遍的に観察されることを指す。関連の (B) は相対危険度が大きいことを、関連の【40】は原因と結果が1対1に対応することを、(C) は実験的研究などによる他の知見とよく整合していることを指す。

B1 問題

【1】か【2】のいずれか 1 問を選び解答欄に記入しなさい。

【1】 産業医として写真のような職場を巡視した。職場巡視後の改善案 4 点を理由とともに 200 字前後で述べなさい。(カラー写真を別途配布)



【2】 「石綿による健康被害の救済に関する法律」(石綿健康被害救済法) による救済制度はどのようなものか、200 字前後で説明しなさい。

B2 問題

【1】か【2】のいずれか 1 問を選び解答欄に記入しなさい。

【1】 化学物質等の慢性ばく露による健康影響リスクを見積もる際の労働者のばく露レベルを、実際のばく露濃度を測定することなく推定する方法(control banding 法)について、200 字前後で説明しなさい。

【2】ある印刷作業場の作業環境測定結果は第1管理区分であったにも関わらず、作業者の特殊健診では、馬尿酸をはじめ尿中代謝産物の値が高い従業員が何人かいる。考えられる要因は何で、どうすればよいかを200字前後で説明しなさい。

B3 問題

【1】か【2】のいずれか1問を選び解答欄に記入しなさい。

【1】脳血管疾患や虚血性心疾患等の心臓疾患は、過重労働をしていない人にも発症するが、過重労働をした人に発症した場合に労災認定される。その理由を200字前後で説明しなさい。

【2】衛生委員会で審議すべき長時間労働による健康障害の防止対策について200字前後で説明しなさい。

C1 問題

【1】か【2】のいずれか1問を選び解答欄に記入しなさい。

【1】リスクアセスメントは労働災害を未然に防ぐために行われる。以下に過去報告された事例2つを示す。解答欄のリスクアセスメントマトリクスを完成させた上で、300字以内で、それぞれの事例のリスクの見積りと、優先的な対策をとるべき職場はどちらかについて説明しなさい。

事例1 醤油工場で醸造仕込工程が終った醸造タンクの下部配管から醤油原料を抜き取った後、2名の作業者がタンク内に入り清掃作業をしていた際に災害が発生した。タンク底には原料醤油が一部残存していた。清掃作業前に測定や換気などの対策、作業の有害性に関する教育もなされていなかった。発見当時、タンクの上部から梯子が立てかけられており、原料醤油の表面には泡状の膜が見られた。底に2名の作業者が倒れており、ブラシなど清掃用具が散乱していた。送気マスクの備え付けは無かった。タンク清掃は醸造毎に行われ、当該工場での頻度は月に1回程度であった。

事例2 ある金属製品加工製造業の工場では、発注者によって持ち込まれた様々な製品の切断・溶接・塗装の作業が行われていたが、特に作業工程の分担も決めず、打ち合わせもないままに、その日ごとの作業が上司の指示のもとに行われていた。腐食防止用の亜鉛コーティングされた製品の歪みを取るために、アセチレンガスを用いて作業をしていた1人が気分が悪くなり、帰宅後に発熱と呼吸困難が生じた。当該工場では保護具着用は徹底されていなかった。

リスクアセスメントマトリクス

【2】 次の Table は、米国のある電力会社の在職死亡者(Obs)の死因別死亡リスクを SMR で示したものである。期待死亡数(Exp)は全米の性・年齢別死亡率から求めている。この職場の産業医として、1)全米平均に比べ低い結果が得られていること、2)職場内の健康問題として注目すべき疾患とその理由について、300 字以内で記述しなさい。

cause of death	Obs	Exp	SMR*
all cancers	194	250.0	0.78
ischemic heart disease	344	459.9	0.75
cerebrovascular disease	62	76.9	0.81
diabetes mellitus	10	18.3	0.55
nonmalignant respiratory disease	42	69.2	0.61
digestive system disease	26	72.0	0.36
genitourinary system diseases	15	18.2	0.82
motor vehicle accidents	36	60.2	0.60
suicide	39	40.2	0.97
all causes	966	1320.0	0.73

*いずれも有意に 1 を下回っている。(Checkoway, 1985)

C2 問題

【1】か【2】のいずれか 1 問を選び解答欄に記入しなさい。

【1】 ある機械メーカーでは、完成した機械を据え付けるために、原子力発電所に社員を派遣することが時々ある。このメーカーの 60 歳の男性社員が白内障になり、産業医であるあなたに「白内障は原発で作業したことが原因ではないか、労災にはならないか」と相談に来た。どのように対応すべきか 300 字以内で記述しなさい。

【2】 32 歳女性。秋田市にあるジーンズ製造業に勤務し、水で希釈した次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませたパットを用いて、立位姿勢でジーンズの色抜き作業に従事していた。6 月 9 日の昼休

憩後の作業開始直後に眩暈、吐き気、口渇を訴え、近くの総合病院に救急車で運ばれた。その後、当該労働者は労災認定のため所轄労働基準監督署に書類を提出した。被災当日、水分摂取はしていたと言う。秋田地方気象台によると、6月5～6日の最高気温は20℃前後であったが、7～9日は25～28℃であった。作業場の次亜塩素酸ナトリウムが置いてある付近を調べたが、酸性化学物質は見当たらなかった。考えられる原因を2つ挙げ、その理由も述べた上で、どちらの可能性が高いかについて理由を付して300字以内で記述しなさい。

C3 問題

【1】か【2】のいずれか1問を選び解答欄に記入しなさい。

- 【1】**あなたは埋立地の工業地帯にある従業員2,000人（協会社従業員を含む）の製造業A事業場の専属産業医である。真冬のある日の15時頃、大地震が発生し、震度6にみまわれた。A事業場内は、地盤沈下、液状化現象、停電となり、工場の一部が倒壊している。ライフラインの道路は麻痺状態、電話などの通信手段も不通状態となった。近くの石油コンビナートでは大爆発が起こり、大きな火柱があがり、熱風がA事業場に吹き込んでもきている。地震発生直後からA事業場の災害対策本部が立ち上がり、産業医も救護班として活動を開始した。今後24時間以内に起こる可能性のある救急を要する事態とその対応について300字以内で記述しなさい。
- 【2】**「こころの健康問題により休業した従業員の職場復帰支援」に係る個人情報保護に関する社内規定を300字以内で作成しなさい。

【口頭試験問題】

口頭試験では、産業医に必要とされる個別の知識と関連領域の知識との整合性や総合性を試験するとともに、専門医に要求される産業医経験の程度、産業現場での問題解決能力、総合的評価能力、また、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等のコミュニケーション能力を評価することを目的としました。

【A1 口頭試問】、【A2 グループ討議】、【B 課題発表】の3種類の口頭試験が、各6または7名、5組のグループで実施されました。

A1 問題については、基本的に、大きな分野、分類から小さな領域へと話を進める方法で回答していただきたい。そのためには、基本的な事項を正確に整理しておくことが必要です。同時に、最新の労働衛生の問題に関連する通達やガイドライン等の内容についても十分な知識と理解を求めます。

A2 問題については、課題問題の設定条件をよく読みとり、問題解決に至るプロセスをグループ内でディスカッションし、解決策をまとめて発表することが求められます。

B 問題については、受験者個人ごとに設定された条件をよく読みとり、その問題解決に関連する事項を適切にまとめ、簡潔に発表することが求められます。

以下に平成 23 年度の口頭試験問題を示します。

A-1 口頭試問：基礎知識を問う問題

1. 「事務所衛生基準規則」における作業環境管理について述べなさい。
2. 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS：Globally Harmonized System of Classification）について知るところを述べなさい。あるいは、配布した GHS 図のどれかについて、その意味を述べなさい。
3. 通達「介護作業者の腰痛対策チェックリスト」（平成 21 年 4 月 9 日 基安労発 0409001 号）で重量負荷、作業頻度・作業時間、作業環境について、リスクが高いとされている項目をそれぞれ述べなさい。
4. 「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」（改訂）の要点を述べなさい。
5. 通達「定期健康診断有所見率の改善のための取組」（平成 22 年 3 月 25 日 基発 0325 第 3 号）について説明しなさい。
6. 過重労働の面接指導に際して、注意すべき点を述べなさい。
7. 「許容濃度等の勧告」における発がん物質の分類と、その利用について述べなさい。
8. 有機溶剤中毒予防規則にもとづく健康診断の際に、尿中代謝物の測定が義務付けられている物質名を述べなさい。

A-2 グループ討議

1. あなたは従業員 700 人の自動車部品工場の産業医で、毎月の安全衛生委員会にも出席しています。毎回の委員会でヒヤリハット報告、各職場の KYT 活動、さらにリスクアセスメントの取り組み状況が報告されます。しかし、最近これらの報告に対してあまり意見が出ることもなく、これらの活動の進捗状況も良好とは言えなくなっています。そんな中、ある委員から、これらは事故の芽を摘み取るという意味では類似の活動であり、いずれか 1 つに重点を置き、他の活動は当面中止するか、簡単に済ませてはどうかとの意見が出されました。産業医としての意見をまとめてください。
2. あなたは従業員 450 人のプラスチックの原料を製造するプラントの嘱託産業医です。プラントに併設した検査室では約 15 名が作業しており、プラスチックの粘度や強度を測定する検査を行っています。検査の工程で検査機器を清掃するために、有機溶剤 100m l / 週を使用し、清掃の頻度は 3～4 回 / 月で、作業時間は 20 分程度です。検査室内に局所排気装置はありません。今まで、有機溶剤の取扱量が少なく、頻度も少ないことから、健康診断や作業環境測定の対象としていませんでした。しかし、安全衛生委員会において、作業時に有機溶剤のにおいがするので健康診断を行ってほしいとの要請がありました。どのように対応するのが適切か議論しなさい。
3. あなたが勤務する事業場で、過去現場作業に従事していた退職者の中から、胸膜中皮腫により亡くなった方が発生し、遺族から相談があったと労務部門から報告がありました。このような事例は、当該事業場では初めてです。事業場内で、今後どのような対応をするべきか論じて下

さい。

4. あなたは半導体を製造している工場の、勤続2年目の専属産業医です。この工場の従業員は約1800人で、9割が男性で平均年齢33.5歳、ほとんどの従業員がクリーンルームで3班3交替の勤務をしています。現場で働いている23歳男性社員（入社4年目）が、朝のミーティング中、同僚と懸案事項をめぐり激しい口論となり、突然意識を消失しましたが、1分くらいで意識は戻りました。本人は何でもないというものの、産業医に面談して欲しいとの相談が、職長からありました。また、過去においても同様な事が2~3回あったとのことでした。産業医のあなたは、今まで、本人の口から意識消失については聞いたことがありません。あなたは、今後、どのような対応をしますか。

B 課題発表

1. あなたは従業員約400人の電気製品製造工場の嘱託産業医に新たに選任されました。この工場には、これまで嘱託産業医が週1日勤務していましたが、その産業医は職場のことはわからないからと職場巡視を実施していなかったということです。そこで、あなたは職場巡視を行いたいと考え、担当の衛生管理者に相談したところ「ぜひやっていただきたいが、職場に戸惑いが生まれるかもしれない。一度、衛生委員会で、職場のみんなが職場巡視を喜んで受け入れられるように、職場巡視の意義とやり方について説明してください。」と頼まれました。衛生委員会において10分間で説明してください。
2. あなたは従業員約300人の化学工場の産業医です。事業場で取り扱う製品は、多品種にわたっており、現場にはMSDSファイルはあるものの、保管場所やその内容に対する作業員への周知は不十分です。さらに新規化学物質の導入に際しては、有害性情報の内容が不明確な物質もあるようです。法令対応遵守事項のみで安全衛生管理を行うことは不十分であり、事業場として自主的な化学物質リスクアセスメントが必要と考えました。安全衛生担当者の会議で、産業医としてのアドバイスを10分間で行って下さい。
3. あなたは、従業員の大半が営業職である事業場の嘱託産業医です。直近の健康診断において、要精密検査と判定された30歳代後半の職員が、手術不能の進行肺がんであると最終的に診断されました。この結果を受けて、企業側は、「年1回の健康診断では肺がんは早期に見つからないと聞いたし、義務でない胸部X線検査はやめたい。」と言い出しました。この企業では安衛法で定められる全項目を全従業員に実施しています。安全衛生委員会において、あなたの考えを10分間でプレゼンテーションしてください。
4. あなたは従業員約300人の損保会社の支店を担当する専属産業医です。この夏の節電の取り組みとして室内エアコンの温度設定を28℃とすることを徹底した結果、これまでしばしば訴えがあった女性従業員の冷え症状は激減しました。一方、男性従業員からは室内が暑く、作業の能率が悪くなったとの声が多く聞かれました。服装はいわゆるクールビズを導入しています。今後室内の温湿度条件をさらに検討し、多くの従業員に冷えを感じさせることなく、また作業能率にも影響の少ないものにすべきだとの意見が安全衛生委員会から出されています。産業医として10分間でアドバイスしてください。
5. あなたは製造業（従業員約900人で事業所は1事業所のみ）の専属産業医で、上司は人事部長

(役員)です。部下は保健師1名、専任の衛生管理者1名、事務職1名です。以前よりメンタルヘルス対策として、管理職研修や、カウンセリング体制の構築、健康診断時の問診票によるメンタル不調者の早期発見などを行っています。最近、人事部長が労務管理に関する研修会に出席し、職場のストレス調査を行い、職場のストレスを低減させようとする取り組み事例を聞いてきました。

人事部長より、事業所全体で職場ストレス度調査を実施して、従業員に職場ストレスに対する意識を向上させ、さらに調査結果を基に職場のストレスを低減させることができるのではないかと提案があり、詳細を検討して意見を述べるように指示を受けました。人事部長に10分程度で産業医としての意見を述べなさい。

6. あなたは全国に営業所を展開する電機メーカーの1つの工場といくつかの営業所を担当する専属産業医です。最近会議での居眠りが目立つことが安全衛生委員会で話題になり、一方なかなか減らない営業車の交通事故についても睡眠との関連があるのではないかと意見が出されました。総括安全衛生管理者からは、もし睡眠時無呼吸症候群をもつ従業員がいた場合は、適切に対応しなければ安全配慮義務を果たせないのではないかとコメントがあり、意見を求められました。産業医としての意見を10分間でプレゼンテーションしてください。
7. あなたは従業員約1,500人の製造業の事業場の産業医です。この事業場では、従業員の定年後の再雇用が進み、現場作業においても60歳を超える作業が増えてきました。現場には、鉄鋼製品の溶接作業、グラインダー作業、組み立て作業があります。また今夏は節電対策が取られていますが、事業所長から、現場高齢労働者に対する配慮を検討するように指示がありました。安全衛生担当部門および人事部門とのミーティングで、産業医としての施策案を10分程度でプレゼンテーションして下さい。